

CASBEE あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)タマディック豊田事業本部 (事務棟)	階数	地上3階
建設地	愛知県豊田市三軒町5-1-21,22	構造	S造
用途地域	工業地域, 防火地域指定なし	平均居住人員	300 人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年6月 予定	評価の実施日	2024年3月15日
敷地面積	7,386 m ²	作成者	菅井啓太
建築面積	1,165 m ²	確認日	2024年3月29日
延床面積	2,998 m ²	確認者	森貴敏彦



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 91%

③上記+②以外の 91%

④上記+ 91%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 1.7

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">3.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td><外装材に使用した地域性のある材料></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></td> <td>なし</td> </tr> </table>	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし
<外装材に使用した地域性のある材料>	なし				
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (仮称)タマディック豊田事業本部(事務棟)

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分			住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	
		Q 建築物の環境品質							
Q1 室内環境									3.1
1 音環境									3.6
1.1 室内騒音レベル				0.1	3.6	0.15	-	-	3.6
1.2 遮音				3.0	3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能			開口部遮音性能: T-2以上	0.4	4.6	0.40	-	-	
2 界壁遮音性能			界壁遮音性能: Dr-40		5.0	0.60	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					4.0	0.40	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-	-	
1.3 吸音					3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境									3.0
2.1 室温制御				0.3	3.0	0.35	-	-	3.0
1 室温				0.5	3.0	0.50	-	-	
2 外皮性能				3.0	3.0	0.38	-	-	
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.25	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	3.0	0.38	-	-	
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.20	-	-	
3 光・視環境									3.0
3.1 屋光利用				0.2	3.0	0.25	-	-	3.0
1 屋光率				0.3	3.0	0.30	-	-	
2 方位別開口				3.0	3.0	0.60	-	-	
3 屋光利用設備							-	-	
3.2 グレア対策				3.0	3.0	0.40	-	-	
1 屋光制御				0.3	3.0	0.30	-	-	
3.3 照度				5.0	3.0	1.00	-	-	
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.15	-	-	
4 空気質環境									3.3
4.1 発生源対策				0.2	3.3	0.25	-	-	3.3
1 化学汚染物質			JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	0.5	4.0	0.50	-	-	
4.2 換気				3.0	4.0	1.00	-	-	
1 換気量				0.3	3.6	0.30	-	-	
2 自然換気性能			自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上。	3.0	3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	5.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理				3.0	3.0	0.33	3.0	-	
1 CO ₂ の監視				0.2	1.0	0.20	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	-	
Q2 サービス性能									3.1
1 機能性									3.2
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.2	0.40	-	-	3.2
1 広さ・収納性				0.4	2.3	0.40	-	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画		独自		3.0	1.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性				3.0	3.0	0.33	-	-	
1 広さ感・景観(天井高)			事務室の天井高2.9m以上。	0.3	4.6	0.30	-	-	
2 リフレッシュスペース			執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース+自動販売機等の設置	3.0	5.0	0.33	-	-	
3 内装計画			インテリアパースによる内装計画の事前検証を実施している。	3.0	4.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理				0.3	3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性									2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.3	2.9	0.31	-	-	2.9
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				0.4	3.0	0.48	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.80	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	3.0	0.20	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				0.3	3.0	0.33	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②			3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					2.0	0.23	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.09	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.08	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			給水HIVP(B)、給湯SUS(C)、排水VP(B)、Eは不使用。		5.0	0.15	-	-	
2.4 信頼性					3.0	0.23	-	-	
1 空調・換気設備				0.1	2.6	0.19	-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20	-	-	
3 電気設備				3.0	2.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		②		3.0	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20	-	-	
				3.0	2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性				0.2	3.1	0.29	-	-	-	3.1
3.1 空間のゆとり				0.3	3.4	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり					3.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ			0.1≤[壁長さ比率]<0.3	3.0	4.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31				
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38				
1 空調配管の更新性			②		3.0	0.17				
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17				
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11				
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11				
5 設備機器の更新性				1.0	3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30				1.7
1 生物環境の保全と創出			独自③		1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		2.0	0.40				2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30				2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-				3.3
LR1 エネルギー					-	0.40				3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPIm=0.7。	3.0	5.0	0.30				5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20				3.0
3 設備システムの高効率化				3.0	2.6	0.30				2.6
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20				3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50				
集合住宅の評価										
4.1 モニタリング										
4.2 運用管理体制										
LR2 資源・マテリアル					-	0.30				3.4
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15				3.4
1.1 節水			節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。	3.0	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.5	0.63				3.5
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②		3.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自		3.0	0.20				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自		3.0	0.24				
					5.0					
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22				3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.5	0.68				
1 消火剤					-					
2 発泡剤(断熱材等)					4.0	0.50				
3 冷媒			ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を使用している。	3.0	3.0	0.50				
LR3 敷地外環境					-	0.30				3.0
1 地球温暖化への配慮			①		3.3	0.33				3.3
2 地域環境への配慮				0.3	2.8	0.33				2.8
2.1 大気汚染防止					5.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善			燃焼機器を使用していない。		2.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.2	0.25				
1 雨水排水負荷低減			独自		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25				
3 交通負荷抑制			独自		2.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制					1.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33				3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40				
1 騒音			独自		3.0	1.00				
2 振動			独自		-					
3 悪臭					-					
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40				
1 風害の抑制					3.0	0.70				
2 砂塵の抑制					-					
3 日照障害の抑制					3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					3.0	0.70				
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30				

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)タマディック豊田事業本部(事務棟)

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$ の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称) タマディック豊田事業本部 (事務棟)

計画上の配慮事項	
総合	利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が長い材料を使用している。 ライフサイクルCO2排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。
Q1 室内環境	開口部遮音性能: T-2以上
Q2 サービス性能	事務室の天井高2.9m以上。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地境界は可能な限り擁壁やフェンスを設けず、敷地周辺の緑地空間と一体となるような空間を創出した。建物を敷地境界からセットバックし、低層にすることで周辺の景観に馴染む配慮としている。
LR1 エネルギー	BPI _m =0.7。
LR2 資源・マテリアル	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を使用している。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率91%。 燃焼機器を使用していない。
その他	特になし。